

第4回三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成20年1月30日（水）午後6時から8時30分まで
- 2 場 所 千葉県国際総合水泳場会議室
- 3 出席者 委員16名
- 4 参加人数 48名

5 結果概要

（1）あいさつ

倉阪委員長からあいさつがあった。

（2）開催結果の確認委員

委員長からの指名により、及川委員、田草川委員が会議開催結果の確認を行うこととなった。

（3）議 事

議題1 第3回検討委員会の開催結果概要

事務局から第2回検討委員会の概要について説明があった。

議題2 干潟的環境（干出域等）形成、淡水導入及び自然再生（湿地再生）について（意見交換）

倉阪委員長から、「意見等の論点整理」により、第2回、第3回検討委員会においての3事業に関する各委員の意見の内容や論点についての説明があった。

また、河川整備課から、護岸検討委員会での「さらし砂試験」について検討状況の説明があり、その後、再生目標、試験目的、試験方法等について、様々な角度から質疑応答及び意見交換が行われた。

（主な意見）

- ・ 沿岸の生態系は一切いじってはいけないものではないので、自然の変動幅を理解しながら、その範囲に入ることなのかを共通理解として進めるべきとの話をした。その範囲内であれば実験をすることも良いが、それを超えるような場合には慎重にすべきである。
- ・ 現在ある干潟的環境の保全が大原則である。市川市所有地での自然再生は湿地再生と干潟的環境形成を同時で考えるべきである。
- ・ 本来的な再生の目的を考えた上で、試験を考えるべきである。試験案を考えた上で、再生の目的からして合理性のないものは、事前調査の前にふるいをか

けるべきである。

- ・ 干潟を造ろうとしている海域は、カキ礁等生物多様性の貴重な海域である。
- ・ 今のタイムスケジュールでは、広い範囲での再生の実験まで考えられないのではないか。
- ・ 干潟的環境形成の試験は、対象生物を複数選んで、それが回復するかどうかについて、護岸に近いところで砂の質を変えながら、試験的に行ったらよいのではないか。
- ・ 今の状態がベストとは考えないので、かつてあった干潟のような原風景に近い環境を少しずつ広げていき、生物の張り付き具合を見るべきである。
- ・ 行徳湿地の水路を開削するのであれば、それと合わせて内陸性湿地を造ることも考えられる。また、干潟も合わせて造り、自然観察の場、研究の場にとの考えもある。
- ・ 県では、行徳湿地の整備について海水交換に重点を置いて考えているが、円卓会議からの議論の流れからいけば、淡水導入による汽水域の拡大という視点から考えるべきである。
- ・ この委員会で検討することは、再生実現化の試験計画であるので、どこで砂を付けて試験をしようかについて意見を集約するべきである。
- ・ 干潟的環境形成の試験は、護岸の完成型の前でやる方が良いのではないか。
- ・ 干潟環境の部分モデルの実験については、市所有地前面でやる方が良いと考える。この場所に関して、開削水路の淡水部分、汽水的な内陸湿地があり、その前面に干潟という、かつての風景、生態系を少しでも復元したいという気持ちにはそれほどの違いはないが、干潟の規模や新たに干潟を造成する必要があるかどうか等については、意見の違いが大きいと考えるので、みんなが見えるようにして実験する必要があるということが理由である。
- ・ 両方やれば判断できるかもしれないが、市所有地前面ではなく、客観的な場所で試験をした方がよいのではないか。
- ・ 「さらし砂」の場所近くは、波当たりが強い所なので、砂が相当流されてしまうのではないか。また、市所有地前面とは環境が相当異なるので、市所有地前面での試験につながらないのではないか。
- ・ 実験方法は一杯ある。箱みたいなものを階段状の足場に載せて仮設で実施したり、ピラミッド様のものを並べて砂を入れて段々畑を作るような手法もある。
- ・ ベントスが入って来るスピードは速く、1年で入るか入らないかは十分見えるので、2～3年もすれば試験結果が出るのではないか。
- ・ 市所有地前での試験は、護岸ができれば環境が変わってしまうので、完成している護岸前で試験をした方が良いと考える。

- ・ 完成した護岸の前に砂を入れようとする、漁港の湾に一番近い所なので、湾が埋まる可能性もあり賛成しかねる。
- ・ 漁港が埋まって困るという話に対しては、埋まったら撤去するみたいなオプションも考えられるのではないかな。
- ・ 砂の量を計算して、埋まらないようにやるという考えもある。
- ・ 砂を付ける試験は湿地前面に大きな干潟を造ったときに、それが安定かどうか見るのが大きな目的である。この試験を護岸近くでやるとすれば、漁業者の方が心配するような、周りに散らばる位の試験をしないとどう散らばるかはわからない。少ない土量で砂の挙動を見るのであれば、護岸に付けず平らなところで2メートルとか、5メートルの砂の小山を造り、小山がどの位のスピードで動くか試験をするとよいのではないかな。
- ・ 「さらし場」としての曝気機能を得ようとするならば、数百メートルから1キロメートルは必要となるのではないかな。
- ・ 「さらし砂」は、曝気機能を目的とするものではなく、砂の挙動や、砂を入れた後どのような自然が再生し、目標生物がつくかどうかをみるのが目的である。
- ・ 漁場再生検討委員会でも、この海域の深浅調査、海流調査等の資料があると思うので、出してもらったらどうか。
- ・ 「さらし砂」の試験は、護岸工事の影響がない所で何かやれることはないだろうかという視点があった。砂を置いてどのように動くか、どんな生物が来るか、将来、護岸の法先に砂場を作る場合の知見を得られればという視点もあった。できるだけ、設定条件としてはわかり易い、少ない要素でやってみて、支配的な要素をつかみ、将来の技術的なツールの裏付けを得たいと考えた。
- ・ 議論としては、干潟、湿地、淡水導入を取りあえず1ずつ区切ってやって、そこで仮に他の部分に影響があるという話になった場合に、その話をするようにしたほうが良い。
- ・ 小規模な試験を湾筋に近い所、完成断面の前、市所有地前でやってみたらどうか。
- ・ 自然再生の場で、湿地再生とセットで小規模に砂を入れることは、円卓会議で合意した問題なので、ひっくり返す気はないが、基本線を変えずに、現在ある干潟を保全するという筋は通してもらいたい。
- ・ 人により小規模と考える広さも違うので、次回以降、対象領域の正確な図面、写真を資料集として配布したり、壁に貼る等して、認識を一致させながら、議論を進めるべきである。

議題3 干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入に係る試験計画、事前環境調査等について

事務局から、「猫実川の深浅測量について(業務計画書)」についての説明があり、質疑応答及び意見交換が行われた。

(主な意見等)

- ・ 予算的に許せば、200㎞と500㎞の2つの音響測深機で測量し、泥の厚さを測定してもらいたい。
- ・ 測量の方法としては、直接歩いて行って棒を突き刺して測った方がよいのではないか。
- ・ 猫実川のコンスタントな排水量と大雨時の下水処理上から来る水の量を教えてもらいたい。
- ・ 猫実川では、深浅測量だけでなく、底質や生物の調査も関連してやるべきではないか。5年後、10年度の調査結果と対比できるような計画を立てた上で、調査ポイントを考えるべきである。
- ・ 猫実川のカキ礁が延べで何カ所、どの程度の広さがあるか調べてもらいたい。
- ・ 一番大切なことは人と自然の触れ合いである。浦安市日の出の護岸の前面は立ち入り禁止になっており、人が入れなければ意味がないので、ルールづくりについて、この委員会で検討してもらいたい。
- ・ ルールづくりは、再生会議で検討した方が良いと思う。
- ・ 浦安市の緑道整備は企業庁の負担で整備することとなっており、浦安市としてはできるだけ早くしてもらいたいと企業庁にお願いしていきたい。

(会場からの質問)

- ・ 三番瀬実施計画については、環境調査等により事前の情報収集を行い、事業の実施が三番瀬の再生に寄与すること及び環境への影響を事前に評価した上で作成することと書かれているので、データ等裏付けの資料をきちんと示した上で、議論をしてもらいたい。
- ・ 委員には、写真とかの資料だけでなく、是非、現場を見てもらいたい。

議題4 その他

- ・ 第2回検討委員会で委員から意見を聴いた3事業に係る「平成20年度三番瀬再生実施計画(案)」について、県からその後の状況説明があった。
- ・ 第5回検討委員会は、平成20年2月29日(金)に開催されることとなった。

【委員長のまとめ】

干潟的環境の形成については、小規模な実験を複数の箇所で行うという方向で試験計画を考えてもらった上で、写真や図面をみながら検討していきたい。

そこで、県からは、次回の会議でどの位の規模の試験になるのか、もう少し具体的なものを出してもらいたい。

すりつけ部でのさらし砂の試験については、護岸検討委員会の方で具体的な案を検討してもらい、その状況をこの委員会に随時知らせてもらい、こちらも全体的な干潟環境形成という観点から効果的な試験になるようアドバイスをしていくという役割分担とさせていただきたい。

猫実川での干潟環境形成及び淡水導入については、県から具体的なイメージを出してもらい、検討を進めたい。

浦安での自然再生については、県と調査会社で上野委員のイメージを聴き取り、取りまとめ、次回の会議で出してもらい検討を進めたい。

湿地再生については、次回、既にだされている大まかな計画でもよいので、市川市から出してもらおうよう調整してもらいたい。

猫実川での深浅測量については、今日の意見を踏まえて、調査計画を見直してもらいたい。

以 上